広報 かも
No.684
平成25年 6

ＪＲ鉄橋下に広がるハナショウブ

主な内容

■ 小池市長の市政報告
女性の方々等に風しんの予防接種を
無料で行います …… ❷❹
■ 落語四人会前売り券発売 …… ❺
■ 国際交流協会総会・国際交流の集い … ❻❼
■ 市民大学講座開催 …… ❽
■ 加茂の風土記「加茂の学塾師匠たち（一）」 ❿

加茂病院は加茂市の宝　加茂病院を盛り立てましょう
「美人の湯」も加茂市の宝　美人の湯をよろしくお願いいたします

市政報告

加茂市長　小池清彦

女性の方々等に風しん予防接種を無料で行います。

今年に入り、風しんが大流行しています。

女性が妊娠初期に風しんに感染すると「先天性風しん症候群」という目、耳、心臓などに障害を持った赤ちゃんが生まれてくるおそれがあります。

そこで加茂市では、将来、妊娠を望まれる女性の方々に、無料で風しんの予防接種を行うこととといたしました。

妊娠を望まれる女性は、どなたでも無料で風しんの予防接種が受けられます。

妊婦の夫と同居の家族等も無料で予防接種が受けられます。

風しんの予防接種を受ける方には、まず、免疫があるかどうかの「抗体検査」をいたします。八割の方が免疫がおありだそうですので、「抗体検査」によって「免疫あり」と判明した方は、ここで、予防接種をする必要がなくなり、残りの二割の方

が予防接種をお受けになることになります。

風しんの予防接種が受けられる病院、医院は、次の表のとおりです。

風しん抗体検査　風しんワクチン接種　協力医療機関

医院名	電話番号	医院名	電話番号
県立加茂病院	52-0701	本間医院	52-8936
青柳医院	52-9511	皆川小児科医院	53-3530
いからし小児科アレルギークリニック	53-2250	吉田内科医院	57-7511
うすき医院	52-1261	鷲塚内科医院	52-2054
監物小児科医院	52-0800	須田医院	41-5025
小池内科消化器科クリニック	53-3355	田上診療所	57-5015
徳友医院	53-0167	田中医院	57-2024
堀内医院	52-0953	星野内科医院	41-4141

助成対象者で、平成二十五年四月一日以降に既に風しん抗体検査、風しんワクチン接種を受けた方には、個人負担金をお返しいたします。

二十二歳以下の女性は、風しんの予防接種を二回受けておられますので、免疫があり、大丈夫なのですが、二十三歳以上の女性は、一回しか予防接種を受けておられないので、免疫がない可能性があります。

そこで二十三歳以上の女性は、あらためて予防接種を受けておかれることが大切です。

二十二歳以下の方でも、二回予防接種を受けておられるか、はっきりしない方は、抗体検査をお受けになり、免疫がなければ、予防接種をお受けになって結構です。

風しんの予防接種には、抗体検査に三千円、予防

接種に九千円、合計一万二千円のお金がかかります。

このたび新潟県は、予防接種に県が三千円補助し、市町村が三千円補助し、残りの六千円を本人負担とする制度をつくりました。

これに対して、加茂市は、加茂市が残りの六千円も補助し、即ち、加茂市が抗体検査料も含めて九千円を補助して、無料で予防接種を行うこととといたしました。

このために加茂市が市議会の議決をいただいて用意したお金は二千七百八万四千円です。

なお他の市町村では、抗体検査に五千円位かかる医院・病院もあるのですが、加茂市医師会の御好意により、「抗体検査料」は、三千円となり、加茂市が全額を助成いたします。

○予防接種をお受けになるときに持って行かれるもの

①将来妊娠を望まれる女性…保険証または免許証

②妊婦の夫、同居の家族等…妊婦の母子健康手帳、保険証または免許証

○助成対象者で、平成二十五年四月一日以降に既に風しん抗体検査、風しんワクチン接種を受けた方は、次のものを用意していただきますと、個人負担金をお返しします。

①風しん抗体検査、風しんワクチン接種の分かる領収書

※抗体検査結果記録もお持ちください。

②金融機関名と口座番号

③妊婦の夫、同居の家族等は妊婦の母子健康手帳

問い合わせ　健康課衛生係

（☎五二-〇〇八〇内線一六二）

文化会館ガイド

豪華真打による花形競演

落語四人会

初代林家三平の次男で、林家こん平に入門。兄の正蔵や小朝に落語を学び、平成21年に二代目三平を襲名しました。

祖父の五代目柳家小さんに入門し、戦後最年少で真打に昇進。小さん最後の内弟子として芸風を継承し、多方面で活躍中。

二代目古今亭圓菊に入門し、初代菊之丞として真打昇進。「趣味は坂東流の日本舞踊」という純和風の噺家です。

五街道雲助に入門し、三代目桃月庵白酒を襲名。落語ファンの間で人気上昇中で、古典落語には定評があります。

11月9日（土）　午後6時30分開演

主催・会場　加茂文化会館（☎53-0842）

前売券:全席指定3,000円（当日3,500円）

プレイガイド

加茂市：ミュージックショップ・アベ（駅前 52-1999）　コイケメガネ（本町 52-2321）
市民サービスセンター（上町 53-1180）加茂文化会館（53-0842）

三条市：越後交通東三条駅前案内所（33-0190）　野島書店（本店 33-0521、イオン三条店 35-2976、よっかまち店 33-7717）　JAにいがた南蒲旅行センター（45-7300）

※未就学児の入場はご遠慮ください。

市民交流の推進とコムソモリスク市子供代表団来市

加茂市国際交流協会総会・国際交流の集い

加茂市国際交流協会総会が開催され、今年度予定されているロシア・コムソモリスク市子供代表団受け入れ事業や、在住外国人との各種交流事業などの実施が決まりました。

昨年度の事業報告では、コムソモリスク市への中学生代表団派遣事業、ソフトバレーボール大会への参加、世界の料理パーティー開催などについて説明がありました。また、外国人対象の「ふるさと見学」では、中越大震災の被災地となった小千谷市、長岡市（旧山古志村地域）の防災学習施設、旧被災現場を訪れたといい、参加者らからは「地震が実際どういうものなのか知り、怖さがわかった」「備えの大切さがわかった」という感想が聞かれたということです。

今年度の事業では、七月にコムソモリスク市からの子供代表団来市が予定されており、受け入れにかかる費用などについて説明がありました。新潟空港発着便が運休中のため、成田空港経由での代表団受け入れとなり一昨年の前回同様、交通費の負担増が見込まれるということです。また、総会後に開催される会員と外国人との交流会「国際交流の集い」について、会長（小池清彦市長）は、「加茂市以外では在住外国人と市民の交流パーティーがなく、市外からも参加される方が多くいます。会員の皆さんからも好評ですし、情報交換や交流を広げていくためにも、このパーティーは続けていきます。」と話しました。

「国際交流の集い」では、新潟経営大学の留学生らをはじめ、市内外にお住いの外国人の方々など三十七人のゲストを含む約百人が出席し、交流を楽しみました。

国際交流協会の平成二十四年の催し

協会では、市民と在住外国人、留学生との交流事業を開催しています。料理パーティーでは、運営ボランティアとして大勢の市民の皆さんから参加していただきました。

①ソフトバレーボール大会（11月11日）　②ふるさと見学（11月３日）
③世界の料理パーティー（12月１日）
④中学生代表団コムソモリスク市派遣事業（７月30日～８月６日）

第38回市民大学講座

おもしろ越後塾～元気が出る新潟弁講座
新潟方言・郷土史研究家　大田朋子さん

市民大学は、各界の最先端技術の情報、社会の動き、郷土史などをテーマに開催されています。三十八回目を迎える今年は講座に約八十名が出席し、生涯学習講座の一つとして利用されています。

六月二十四日は「おもしろ越後塾、元気が出る新潟弁講座」をテーマに新潟弁・郷土史研究家の大田朋子さんを講師にお迎えし、方言の持つ魅力をお聞きしました。

新潟県は南北に長く、海岸沿い、平野部、山沿い、佐渡や粟島と地理的に異なる特徴にあふれています。新潟弁といわれる方言の中でも、地域によって意味やニュアンスが少しずつ変わっている言葉も多いそうです。『たくさん』という意味では、「いっぺこと」「ふっとつ」「ぐっつら」「しかも」など数えるものや大きさによって変わることや、下越地方では「しかも」を、中・上越では「いっぺこと」を多用するそうです。

最近は、テレビドラマや地方イベントで方言がよく使われますが、明治時代には「方言撲滅運動」があり、戦後の高度成長期にも方言をはずかしいものと思う風潮があったそうです。しかし、幼いころから使っていることばには、やさしく言い表すことや、雰囲気をやわらかくするからという理由で見直されています。また、慣れ親しんだ言葉を使うことは、ボケや物忘れの予防に注目されているそうです。

講師の大田さんは、「方言は地方の特徴を表現する大切な文化です。皆さんが子どものころに聞いた昔話やその語り口を伝えていってください」と話されました。

カメラスケッチ

加茂川一斉清掃（６月２日）

市民の憩いの場として親しまれている加茂川の一斉清掃に今年も二千五百人以上の方から参加していただきました。加茂川の河川敷は、春にコイノボリ、八月の越後加茂川夏祭りなど、一年をとおして、スポーツや健康づくりの場所としても利用されています。一斉清掃では、駒岡橋から石川公園付近までの間で行われ、燃えるごみ約七トン、燃えないごみ約七百㎏が集められました。燃えるごみはほとんどが雑草などで、ごみが少ないことで市民の皆さんから大切にされていることがわかります。

歯っぴいスマイル加茂（６月９日）

今年から「歯と口の健康週間」となりました。歯科医師会、歯科衛生士、保健推進員ＯＢ会の皆さんからご協力いただき、約三百人の方からおいでいただきました。歯の健診には、幼児の百三名を含む百六十一名が、むし歯のチェックや乳歯から永久歯への生え替わりの注意点などを歯科医師会の先生方から受けていました。会場の市役所玄関ホールでは「新カモレンジャー」が初登場。子どもたちはカモレンジャーの復活に大喜び。食べた後・寝る前の歯みがきをカモレンジャーと約束しました。

小学校団体鑑賞「スクールコンサート」（６月11日）

東京ニューシティ管弦楽団の演奏で、一年から三年生までと四年から六年生に分かれて文化会館で鑑賞しました。指揮者の家田厚志さんが一つひとつの楽器の音を紹介し、子どもたちにもなじみ深い曲を披露しました。それぞれ演奏に合わせて全員合唱があり、元気な歌声に指揮をする家田さんから「元気のある大きな声でとてもうまくできました」とほめていただきました。児童からは「本物の楽器から出る音は迫力が全然違う」と感想が聞かれました。

加茂の風土記

“民は頼らしむべし、知らしむべからず”といわれた江戸時代。幕末にはそれも建前と化し、庶民の学びは広がっていた。大正七年出版の『北越名流遺芳』に載せられた、加茂の三人の塾主を紹介しよう。

～加茂の学塾師匠たち㈠～

雛田葵亭

雛田家は、江戸時代、代々にわたって青海神社に仕え、境内に置かれていた神宮寺の奉祀を担当する社僧で、宮本院と称した。お宮の僧侶ということで宮坊などとも呼ばれた。

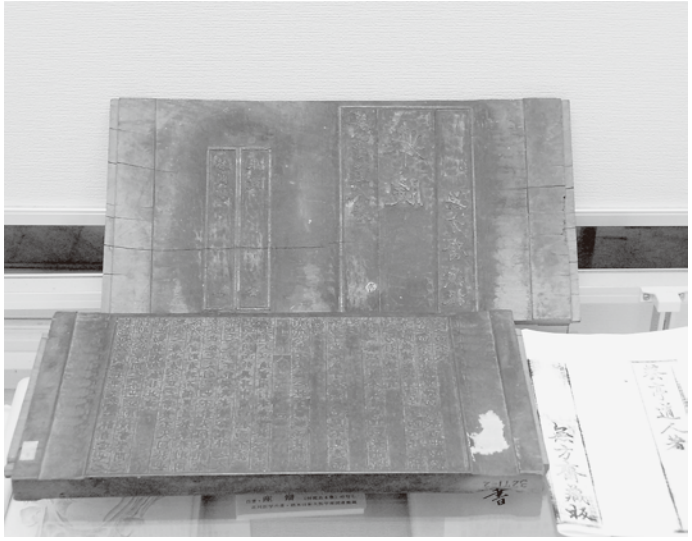
葵亭は天明七年（一七八七）生まれで、名は義方で野鶴道人とも号した。幼くして父母を喪うも、刻苦して学を修めた。折から興隆しつつあった国学に志し、十五歳の年から四、五か年にわたって信濃・上州等に遊学、帰郷すると塾を開いて地域の子弟を教えた。国学の大成者である本居宣長を欽仰し、追慕会を開いたりした。

著書『挙睫』では、王朝交替を繰り返してきた中国と違い、一つの皇統を守ってきた我が国の国体を讃え、敬神愛国の道を説いた。ほかに「挙睫答問抄」「幼学穀率」「葵亭詩文稿」などがある。名声が広がり、魚沼の岡田氏や北蒲原太郎代浜の伊藤氏などは、葵亭の学説に傾倒して毎年招聘し、地域の子弟たちに学ばせたほどである。

門下から、子息の雛田松渓をはじめ、狭口村笠原家の新吾（庄屋寛八の長男）・秀次郎（同次男、のち居之隊隊長松田秀次郎）兄弟、上条村の小池内広（本紙六四〇号で紹介）・小柳春堤（通称善四郎、上条村旧家、八幡屋六右衛門家）、下条村の涌井三郎（篤農家、下条村初代村長）など、維新期に活躍した有為の士を輩出した。

弘化三年（一八四六）六十歳で没。

（溝口敏麿）



雛田葵亭の著書『挙睫』の版木
（加茂市民俗資料館所蔵）

ありがとう

社会福祉費寄付金

▼加茂市場協進会（代表　関川忠雄さん）から　四万円

▼株式会社鴨川から　七万円

▼全国松坂・小唄日本一大会から　一万二千百四十三円

▼堀内松夫さん（第二十三区）から　一万円

加茂市へ

▼有限会社家具のまるやま（三条市）から　車いす一台

▼金子健太郎さん（燕市）から　メラミン食器五百枚

人口のうごき

6月1日現在

世帯	10,267	（＋11）
人口	29,825	（－19）
男	14,384	（－ 4）
女	15,441	（－15）

（　）内は前月比

（5月異動分）

出生 18（男 7 女11）
死亡 29（男14 女15）
転出 55　転入 47

●発行　加茂市役所　新潟県加茂市幸町二丁目三番五号　〒959-1392　☎0256(52)0080　FAX0256(53)2729　ホームページ http://www.city.kamo.niigata.jp　e-メール kamo@city.kamo.niigata.jp　●編集　総務課　●印刷　㈱小野塚印刷所